



JIC インフォメーション

発行所: JIC 国際親善交流センター 発行責任者: 伏田昌義

第130号 2005年1月10日

年6回 1・2・4・6・9・11月の10日発行

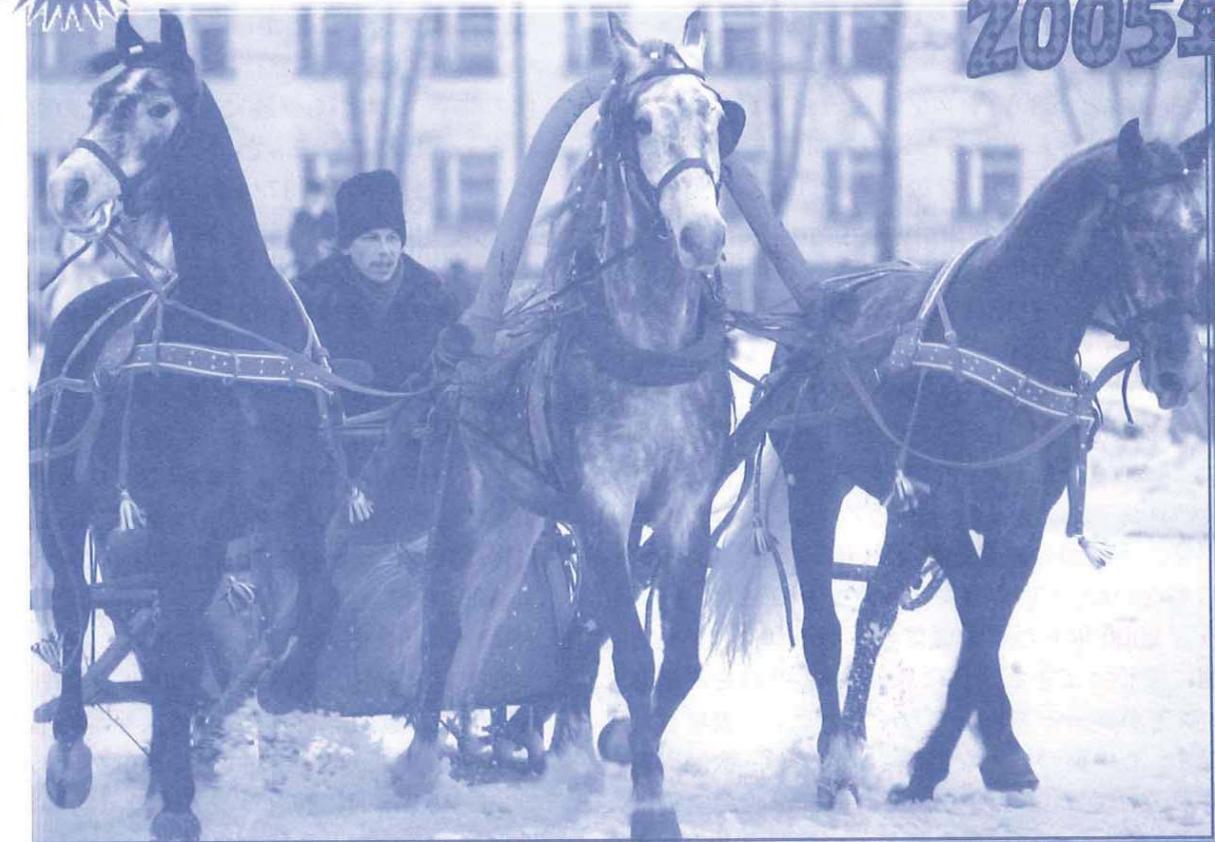
1部 500円

<http://www.jic-web.co.jp>

東京事務所: 〒160-0004 東京都新宿区四谷4-1 小島ビル 6F

TEL: 03-3355-7294 jictokyo@jic-web.co.jp大阪事務所: 〒540-0037 大阪市中央区内平野町2-2-4 コスミックビル3F TEL: 06-6944-2315 jicosaka@jic-web.co.jp

シア・旧ソ連
国際交流誌



С Новым Годом!

写真 トロイカ

JICスタッフより新年のご挨拶 ······ 2-9P

飛んでけ！車いす ······ 13P

モスクワ留学通信「さむ~い冬とこわ~い試験」 ··· 10-11P

変わりゆくモスクワ・ペテルブルグ・キエフ ······ 14P

写真展「チョーチャ！チョーチャ！～ロシアの顔」 ··· 12P

ペンパル情報&JIC情報 ······ 15-16P

JICは頑張る人を応援します！

JICでは、Jクラブ(JIC友の会)会員を募集しています。

年6回の情報満載のインフォメーションをお届けします。

JICスタッフよりご挨拶



あけましておめでとうございます



JIC の留学セミナー（11月 13 日、東京）で講演していただいた高尾潤さん（N 放送・元モスクワ特派員、JIC 留学 OB）の話がとても面白かった。ここ数年、なんとなく感じていたことを見事に整理して言い当てられたという感じです。



高尾さんの話は要約すると「ロシアは 2000 年のプーチン政権の登場以降、『ふつうの国』になった」というものです。高尾さんによれば、この頃から「ロシアがニュースにならなくなつた」。ロシアで取材したニュースが日本で取り上げられる確率がかなり落ちたそうです。それはちょうどドイツやフランスの記事が日本の新聞に日常的にはほとんど載らないのと同じように、ロシアがそれまでと違つて特別な扱いを受けなくなつたからではないかとおっしゃっていました。

そういえば 1970 年代から 80 年代の冷戦時代には、赤の広場のパレードで立ち並ぶソ連共産党指導部の立ち位置からその序列がどう変わったかとか、ソ連の核戦力や極東ソ連軍の配置がどう増強されたかとか、何か「得体の知れない国」、「怖い国」として、ソ連の動向はマスコミに取り上げられ続けてきました。ソ連崩壊（91 年）後のロシアも、ハイパーインフレによる経済混乱とエリツィン大統領の議会砲撃（93 年）など、「やっぱり普通じゃないな」という目で見られてきました。それが、ちょうど 2000 年あたりを境に日本からロシアを見る目が急速に変わってきたように思います。それを高尾さんは「ロシアがニュースにならなくなつた」と表現されたわけです。その裏づけとなる詳しい論考は、次回以降に掲載される予定の留学セミナーの報告を読んでいただくとして、私たちも旅行業を通じてロシアと長年つき合つてきて、確かにここ数年、「変わってきたな」という感じを抱いています。



何が変わってきたか？ まず日本からロシアにいく客層の変化です。以前は（とくにソ連時代は）、ロシア（ソ連）に旅行する人といえば、バレエとか、ロ

シア語とか、文学、あるいは政治と、何かロシアに特別な関心があつてこだわりを持った人が多かつたような気がします。逆に言うと、ロシアはそのようなこ

だわりを持った「物好きな人たち」だけが旅行に出かける國だったわけです。ところが最近、ロシアに出かける人はというと、若い人でも中年、老年の人でもまったくの観光気分で出かける人の割合がグッと大きくなつてきました。これは昨年のサンクトペテルブルグ 300 年祭を機に、大手旅行社が「魅惑のロシア」「白夜のサンクトペテルブルグ」などと大きな新聞広告を出してロシア旅行の販売に乗り出したことも関連していると思いますが、ごく普通にヨーロッパの国に出かけるのと同じ感覚でロシアに旅行する人が急速に増えてきました。

これはロシアに出かける客数の変化にも現れています。私がロシアへの旅行に関わりを持ち始めた 1980 年代の前半、日本からソ連に出かける人の数は年間 2 万人程度と言われていました。それが 2002 年にはロシアにビジネスも含めて 73734 人（旧ソ連全体では 10 万人）

の人が旅行に出かけるようになっています。この間、日本全体では 495 万人（85 年）から 1652 万人（02 年）へと海外旅行者数が 1000 万人以上増えていますから、「せいぜい 5・6 万人増えたからどうなんだ」と言わればそ



れまでですが、昔を知る人間にとつてはやや大げさですがやはり隔世の感があります。ロシアが普通に観光を楽しめる国、ごく普通の人が気軽に旅行に出かけられる国になっていくことは、とても喜ばしいことです。

ロシアから日本にやって来るロシア人客の数と質も大幅に変化を遂げています。2003 年に日本を訪問したロシア人の数は年間 44512 名、うち約半分が観光目的で残りが商用、興行などです。1999 年が 25126 人なので、この 4 年間に訪日ロシア人数は約 80% 増えた計算です。

ソ連時代に日本に一般観光で来ることのできたのは、職場で推薦を受け海外旅行する権利を特別に受け取ることのできた「模範労働者」のみでした。それは観光目的でありながら準公式代表団のような性格を持っていました。ソ連時代末期に海外旅行が自由化されたのですが、折りしも経済改革にともなう大混乱のさなかで、最初に日本に殺到したのは中古車や日用雑貨を買い付けるいわゆる『買い出しツアー』客が大半でした。それがやはり 90 年代末頃から、ごく普通のロシア人観光客が増大しはじめ、2000 年以降、年ごとに本来の観光目的

で訪日するロシア人が増えていきました。転機になったのは 2002 年のワールドカップ日韓共同開催です。以後、「エキゾチックな東洋の国・日本」の観光魅力がロシアで一気に広がりました。

サハリン沖の石油・天然ガス開発が軌道に乗り、ロシアの天然ガスが日本に大量に輸入される日も近づいています。経済関係の進展はますます、人々の往来を活発化させるに違いありません。このような日常的な行き來の広がりと積み重ねが一定の量を超えたとき、ロシアはますますニュースになりにくい国、ごく普通に隣に存在している国になるに違いありません。そしてそのような蓄積の上に始めて長年の解決できなかった政治的な問題も解決の道筋が開かれていくのではないかと期待するものです。

2005 年は日ロ修好 150 周年という節目の年に当たります。各種の記念イベントが各交流団体によって企画されています。私たちは日ロ相互の旅行交流の拡大でこの節目の年に参加していきたいと思います。本年もよろしくお願ひいたします。

伏田 昌義 (ふしだ まさよし)



日露修好 150 周年

2004 年は約 7 万人の日本人がロシアを観光、ビジネスなどの目的で訪問したと聞きました。3・4 年前までは 5 万人くらいでしたからわずか数年でこれだけ数を伸ばすのもなかなかものだと思えます。

今年はロシア帝国海軍のチャーチル提督率いるディアナ号が下田に来航し、日露通好条約調印 (1855 年) から 150 周年を迎えます。現在の日ロ間の交通は、来日するまで航路で何ヶ月もかかった当時とは比べものになりません。成田や関空、新潟からモスクワ、ペテルブルク、極東シベリアへと多くの空の線でつながっています。今年あたりディアナ号が 150 年前に日本へ向けて出航したクロンシュタット (サンクトペテルブルク近郊の町) あたりにぶらりとでかけてみたいものです。

東京 杉浦 信也 (すぎうら しんや)

ロシアへ留学する

あけましておめでとうございます！皆さん今年の抱負は考えましたか？

さて、突然ですが皆さんの今年の抱負を僕が考えました！！それは、「今年はロシアへ留学する！」です。そんな勝手に決めるなよ・・という人はすみません。でも



最後まで読んでくださいね。

「留学」というと皆さんはどう感じますか？やっぱり固い雰囲気を感じますよね？確かに 10 ヶ月などの長

期留学の場合はあまり軽い気持ちでは行けないと思います。取りあえず行ってみるというのもありだとは思いますが、やはりよく考えてからにした方が良いでしょう。長期留学はとても得るものが多いですが実は得るだけではありません。長期間自分のホームグラウンドである日本を離れるのは少なからず失うものもある、と僕は考えています。

しかし実は気楽に出来る留学というものもあります。それは短期留学です。長期留学の場合には非 HIV の検査を受ける必要があるなど手続きに面倒なこともありますが、短期間の留学なら準備はかなり簡単です。手配にかかる時間は、大学で研修を受ける場合は最低 2 ヶ月はかかりますが、語学専門学校など出発までに 3 週間あれば手配可能な研修先もあります。

短期留学は比較的料金も安い上、気軽にロシアを知るという意味でもとてもお勧めです。JIC を通してたくさんの方がロシアに旅行していますが、短期間でも留学は留学で旅行とは違います。この二つの大きく違う所は、ロシアの人と接する時間が全く違うということです。留学の場合は基本的には毎日ロシア人の先生と話をするし、ホームステイの場合は毎日かなりの時間をロシア人と一緒に過ごすことになります。これはロシアを好きな人、興味を持っている人にはかなりの魅力ですよね！！普通の旅行では味わえないと思います。

さあ、皆さんだんだん「留学」をしてみたりましたよね？興味を持っていたら嬉しいです。今年はロシアへ留学しましょう！！

東京 西之原 芳弘 (にしこはら よしひろ)

YOKOSO JAPAN

明けましておめでとうございます！

去年の夏は暑かったです。久しぶりに本格的な夏を満喫できました。夏といえば、やっぱり海ですよね。私は JIC の友人 (留学担当の西之原氏) と毎週のように海に出かけ、思う存分に泳いだり、焼いたりしていました。

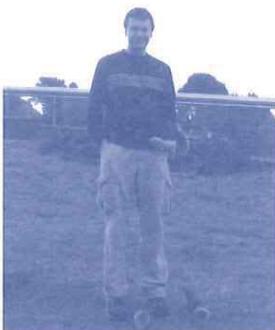
ご存知のようにロシアは冬が長く、そして夏は結構ですがすがしいけれどとても短いです。そんなわけで多くのロシア人は長期の休暇 (なんと 3・4 週間もあります！)

を利用し、「常夏の楽園」を求めて数年前から海外のリゾート地に出かけるようになりました。最初のころは近くのトルコやキプロス島、そして少しずつ足を伸ばし、フランス、イタリア、タイ、インドネシアの「熱」を求めました。最近、日本の海リゾートに来たがるロシア人も多くなりました。私や今年新しく外人旅行部に入った林君宛てに数多くの問い合わせがあり、二人とも手ぐすねひいて「お客様、いっぱい取れるぞ！」と思いつかず、思ひぬ問題に直面してしまいました。

それは、ロシア人のリゾート地に対するイメージと日本の現状のギャップ。これはなかなか大きいですよ。ロシアのお客さんは 2 つの層に別れています。豪華ホテルに徹底的なサービスを求める人とリーズナブルな値段で海だけを楽しむ人です。そしてロシア人にとっての「豪華ホテル＆あらゆるサービス」にフィットするところは探し尽くした挙句、たった 2 カ所しか存在しなかったのです。沖縄のブセナ・テラサとカヌチャベイ・リゾートです。しかし、どちらも夏の間は満室状態でまったく部屋が取れません。おかげでほとんどの「美味しい」お客様は流れてしましました。では、もうひとつの層のお客さんはどうだったかというと、これもまたほぼ全滅です。中堅の大型リゾートは混んでいる上、この層のお客さんにとっては「天文学的」と言いたくなるほど高い夏季料金を持ち出します。小型のホテルや民宿という手もありましたが、スタッフは英語がほとんど通じないし、「外国人のお客様です」というだけで慌てて腰を引いて、受け入れに難色を示します。

来年もきっと数多くの問い合わせが来ると思うのですが、今からなんらかの対策を練らなければ、来年も日本のリゾート地でロシア人を泳がせることができないかもしれません。(笑)。

去年から始まった政府主導の外国人観光客誘致キャンペーン「YOKOSO JAPAN」「Visit Japan」キャンペーンは私の期待を見事に裏切ってしまいました。このキャンペーンは東南アジアや中国、韓国、台湾など、いわゆる近隣国から来る観光客に対しての「地域限定」のもので、米国、欧州、そしてロシアの観光客はあまり当てはまらないようです。(実際に数多くのホテルはこのキャンペーン枠内で特別料金を設定していますが、あくまでも「アジア・レート」で、ロシアからのお客様は枠外になってしまいます。) 日本政府は本格的に外国人の観光客を誘致したいのなら、もう少ししっかり考えてやって



ほしいものですね。

とはいって、わが社の外人旅行部は全体としては好調で、昨年は 1500 人以上のお客様をロシアから日本に受け入れました。今年ももっとたくさんのお客様に日本を知り楽しんでいただきたために頑張ります。

東京 MOROZOV DENIS (モロゾフ・デニス)

JIC のホームページ見てますか?

新年あけましておめでとうございます。

本年も JIC をよろしくお願ひいたします。

もう皆さんにすっかりおなじみ(?)の JIC ホームページの管理・更新を担当させてもらっている永富(ながとみ)といいます。JIC のホームページは、2003 年 5 月にリニューアルオープンし、早いもので 1 年半が経ちました。。。一時は、ロシアでの悲しいニュースが増え、つらい時期もありましたが、おかげさまで皆様のたくさんのアクセス数に支えられ、無事新年を迎えることができました。ありがとうございました。

昨年 2004 年は、悲しいニュースがあった一方、ロシアの文化的プラス面もメディア等で、さらに多く取り上げられた年でした。不思議なキャラクター「チェブラーシカ」、モスクワ国際映画特別賞を受賞した日本映画「ホテルビーナス」、ヴェネチア国際映画祭グランプリ他数々の賞を受賞したロシア映画「父、帰る」、またスポーツの面では、アテネオリンピックのシンクロ女子の活躍、フィギュアスケート女子イリーナ・スルツカヤ、男子世界王者ブルシェンコ、テニスの新女王シャラポワ、格闘技 PRIDE のヘビー級王座に輝いた(予想)ヒョードルなどなど、ロシアに関わる多くのできごとが日本人にとって好意的に伝えられた一年だったと思います。政治・歴史的な問題も数多くありますが、今年もこういった文化的な側面から一般的には「危険で」「寒い」というロシアのマイナスイメージが徐々に払拭されより多くの



日本人がロシアに親近感を持つようになることを心から願っています。そして、それらの一端を担っている私たち JIC も、イベント・旅行・留学等々で少しでもロシアの魅力を皆様に多く感じていただければと思います。

それでは、最後になりましたが、今年も皆さんにとってより良い年となることを心からお祈りしております。ロシア版・ヨン様が現れる日を願う永富でした。

大阪 永富 文彦 (ながとみ ふみひこ) 写真右

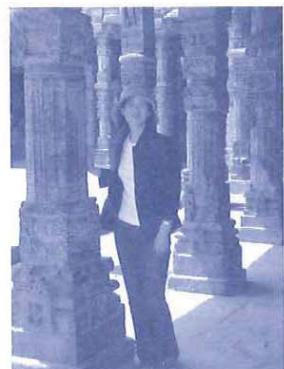
いつかまた、お逢いしましょう

新年あけましておめでとうございます。

私が言うのも変な話ですが、昨年はジェーアイシー旅行センター㈱にとって大きな節目の年となりました。目標にしてきた国土交通大臣登録の第一種旅行業者として、ついに登録することができたのです。今までスタッフが力を合わせてやってきた事が具体的な形で報われた、とてもうれしい成果です。私が入ってから11年、JIC国際親善交流センターおよびジェーアイシー旅行センター㈱のメンバーは約2倍に増え、いつの間にか私自身はその中でも古株と呼ばれる人間になってしまいました（まだ若いはずなのに・・・）。

私がこの場所にいるのは、学生の頃国際親善交流センター（JIC）でロシア語留学を斡旋してもらったのが縁だったのですが、ロシアが好きで、ロシアとの交流を、旅行を通して実践できたらいいなあという思いがあつたからです。11年活動してきた中で、自分がそれを実践できたのかと言われれば、答えに詰まる部分があります。なぜならジェーアイシー旅行センター㈱で利益や効率を追求することと、JIC国際親善交流センターで交流活動することは、基本的には相反することでしたし、スタッフの時間も予算も限られていたからです。ただ言えるのは、今まで私がこの場所でスタッフとして過ごした時間は貴重で楽しいものでした。

このような堅苦しいことを書いたのは、実は昨年は偶然にも私自身にとってまた節目の年になったからです。今年からしばらくの間、私はこの場所を離れることになりそうです。ロシアと旅行を愛する方ならば、いつかまたお目にかかることができるかもしれません。その時はまたお声をかけてくださいね。



今年が皆様にとって良い年になりますように。

大阪 小原 浩子（こはら ひろこ）

めしビデオ

新年おめでとうございます！本年もどうぞよろしくお願いします。ご挨拶も2年目ですので、近頃の私について囲うと思います。

我が家で流行の「めしビデオ」という言葉をご紹介します。夕食時に見るビデオです。自宅までの道のりが遠いので、夕食がどうも夜食のような時間になります。深夜の空気の中での食事、彩りにとテレビをつけるとどうもつまらなそうな深夜番組ばかり一という時にビデオ（やDVD）を見るのです。映画は見始めると止まらず食

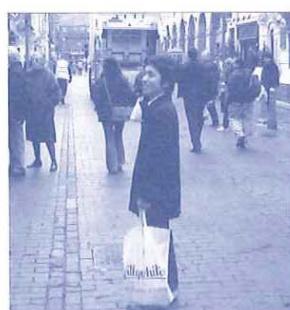
後の時間まで圧迫するため、めしビデオには30分から1時間以内のシリーズものが選ばれます。今までの実績としては「未来少年コナン」や「バンド・オブ・ブラザーズ」、「白い巨塔」などいろいろ。食事をしながらですが、足が吹っ飛ぶ戦闘シーンも血が飛び手術中のシーンも、おかまいなしで見ちゃいます。でも、そんな時にふと思ひます。・・・これって私も夫も気にしないから食べながら見てるけど、嫌な人もきっといるよね。例えば私にとっては普通のレベルのホテルでも、お客様からすると水まわりがチョー汚い！とかレセプションの愛想が悪すぎ！ということもあるかもしれない。自分が大雑把なタチでも、やっぱり人にお勧めする時には気をつけなきゃね・・・いろんなジャンルのものを見てるつもりだけど、二人で決めてることだから、実際は何か「傾向」があるんだろうな。年代から来る好みは大きいかも。若い人には未来少年なんか知らん、名探偵のコナンが好きって人もいるんだろうし。JICは私と同世代の人が多いから、学生さんとか熟年の方が満足する旅行を作るのって、結構努力しなくちや難しいな・・・などなどぼんやりと考えながら、夜更けにペちゃくちゃと喋ったり、見たり、食べたりしている毎日です。次は何見ようかなー。

東京 百瀬 智佳子（ももせ ちかこ）

敵陣を深く抉れ！

新年あけましておめでとうございます。皆さんにとって昨年はどんな年だったでしょうか？私にとって2004年は転機の年でした。4月からJICに入社し外国人受入部の一員として働き始めたことが最も大きいことです。その転機によって、いろいろなことを知ったり、感じたりする機会がありました。東京観光一日で15箇所回ろうと意気込むお客様、日本中新幹線があると思っているロシアの旅行会社、『セレブな』お客様のとてつもないお金の使い様、などなど。

最近、自分のロシア語に感じる事があります。大学で4年、在学中1年JICでペテルブルグ留学、今年の3



月まで約3年間ハバロフスク州のソヴェツカヤ・ガワニという街で木材に携わるなど、私のロシア語歴は通算10年目になります。多分に影響を受けているのは製材工場にいるおっさん達の喋り方です。同じ部署のデニス君には「林のロシア語は

『 живой (生きた) 』だ。』と言われます。よく言えば『活力のある』、悪く言えば『てやんでえ系』、良くも悪くも『粹がいい』のでしょうか・・・。同じロシア語でも響きが違うようです。

ある国が気になつたら、まず行ってみましょう。同じ英語でもベッカムが話す英語は何でバカっぽいの?と興味を持つたらイギリスに行ってみましょう。何でアブラモビッチはロンドンのサッカーチームを買ったの?と思ったらロンドンに行ってもいいのですが(倫敦最高!)、ロシアにも一瞥くれてやってください。

と言うわけで、ロシアの何かが気になつた方、ロシアに行ってみましょう。『好き・嫌い』や『興味・関心』はそこから生まれると思います。もっと気になつたら、その『好き・嫌い』『興味・関心』を深く掘り下げて『何か』を感じ取ってください。私がロシア語の違いを感じたように。そして、それのきっかけが J I C の旅行・留学であれば我々は大変うれしく思います。

最後に、今年も皆さんにとってよい年でありますように。
東京 林 寛之 (はやし ひろゆき)

バイオリン頑張ってます

あけましておめでとうございます。

私事で恐縮ですが、数年前、私は、すっかり大人になってからバイオリンを習いはじめました。騒音に悩まされることになる周囲の危惧・反対を押し切り、10 年くらいやれば少しくらい弾けるようになるかな、と一念発起して始めたものでした。音程の外れる音に一番悩まされるのは、実は他ならぬ自分だったのですが、幼児の鼻歌のような音楽でも楽しくて、初めは時間を忘れて没頭していました。最近は、毎日が忙しかったりすると、何日も、何週間もバイオリンケースに目もくれないことも稀ではないのですが、「今さら音大に行くわけじゃないから……」と自分に甘い言い訳を許しながら、細々と続けています。ふと振り返ってみると、「とりあえず 10 年」計画で始めたのに、時間だけはもう半分近くまで過ぎていることに呆然としてしまいます。昨年、大人になってから弦楽器を始めた方たちの弦楽合奏サークルに出会い、時折練習に参加させていただいています。それぞれの生活や仕事を持ちながら、同じ趣味のために集まってくれる人たちとの合奏練習の時間は格別で、月に 2 回の日曜日の夜の練習の後の疲れは、どこかとでもさわやかです。これからもゆっくり長く続けていきたいなと思っています。いつかサンクトペテルブルグの街角で弾ける日を夢見て (?)。

さて、自分勝手なおしゃべりでページを埋めてしまい



ました。今年も皆様の夢がかないますように!

個人旅行アドバイザーとして、今年も精一杯がんばつてまいりますので、どうぞよろしくお願ひします。
東京 杉山 香苗 (すぎやま かなえ)

中世にタイムスリップ

あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひします。

昨年はロシアの周辺を見たいと思い、バルト地方(エストニアの首都タリン、ラトヴィアの首都リガ)、チェコ(プラハ)を訪れました。バルトの国もチェコも EU に加盟し新しい歩みを始めました。各国の首都には中世からの建築物が残り、美しい街並みが旧市街地区として保存されています。これらの旧市街はほとんどユネスコの世界遺産に指定されています。これらの国は古いヨーロッパの姿を現在に新しくよみがえらせることによってヨーロッパの一員に戻りました。タリンやリガの旧市街は、規模は小さいながらよく保存されていて、リガの旧市街などは車の入場規制も行いながら、観光地と住む町としての両立をうまくはかっているように感じます。旧市街を歩くと中世にタイムスリップしたような感覚になって不思議な気分になりました。行くならさわやかな初夏あたりがお勧めです。またプラハはすでに日本でもブームとなりつつある場所ですが、本当にさまざまな国からの観光客が押し寄せてきて、旧市街広場は観光客と現地のお店の売り子さんしかいない状態。明るい太陽の下、広場のカフェでビールやワインを飲む観光客であふれかえっています。夜、小さい教会でパイプオルガンのコンサートを聴いた帰り旧市街の路地を歩くと、「この町でカフカが住み、あの小説を書いたのだなあ」と感慨深くなりました。カフカの小説の中の「何かちょっと湿った感じ」と同じものが旧市街の路地の壁から立ち上がりてくるような気がしました。

東京 中子 富貴子 (なかこ ふきこ)



写真: 中子(右)と宮路(左)。社員旅行で伊豆大島のリス村に行きました。足にリスが這い上がっています。

航空券は任せ！

皆様、明けましておめでとうございます。

今年も皆様にとって素晴らしい 1 年になります様、お祈り申し上げます。私は、東京の旅行局で航空券の発券や個人旅行の手配をしています。近頃発券していく思うのは、年々ロシアに行くお客様が増えてるなーということ。定番のモスクワ・サンクトペテルブルグ

の他、昨年増えたのが極東方面へのお客様。ウラジオストクやハバロフスクに加えて、バイカル湖やカムチャツカに足を伸ばしたり、その後シベリア鉄道でモスクワ方面に抜けたり。中でもウラジオストクを訪れるお客様が増えた様に思います。なぜ・・・？

そこで私も行ってみました、ウラジオストク。閉鎖都市だった歴史や軍港であることからもっと物々しい感じかと思いきや、町はいたって静かな港町でした。町を走る車のほとんどは日本車。話には聞いていましたがその量には笑ってしまう程。道路だけ見たら日本です。しかもトラックなどは中古車を塗り直したりしないで乗っているので、お店の名前や電話番号が書いてあるまま。もしかしたら自分の売った車に会えたりして。

興味深かったのは船で渡って行ったルースキー島の砲台見学。5階建てになっている砲台の中をぐるぐる歩きながら、砲弾の作り方が見られます。なかなか面白いですよ。その他、街を歩いていると「ホテルビーナス」のロケ場所もあります。事前に映画をご覧になって行かれると、また一味違った楽しみ方ができるかも。1番近いヨーロッパ。最短では2泊3日から手配できます。手軽にロシアを感じて見たい方、行ってみてください。

東京 宮路 智子（みやじともこ）

ニューフェースのマリーナです！

皆さまこんにちは!!昨年11月末に東京本社に入社いたしました浅野真理奈（アサノマリーナ）です。私が配属されたインバウンド部ではロシアの旅行会社からの問い合わせが殺到し、現地から日本へ観光に訪れる方々の旅行の手配・招聘状の発行、旅行プランの作成、宿泊先また移動手段の予約など一がされています。

入社初日にはロシア人観光客への招聘状の作成、3日目には10件を超えるホテルの予約、また5日目には現地旅行会社との事務手続きが始まりました。その他いくつか翻訳を任せられ、責任感を強く感じています。業務を学びながらあらゆる事にチャレンジする日々に四苦八苦していますが、先輩方のサポートや毎日の実践により、入社当初と比べ今では手配もスムーズになっています。職場の雰囲気にも馴染み、楽しさと何よりも仕事のやりがいを感じています。

旅行業の経験はまだ浅く、未熟ではございますが、お客様のご希望またご期待に応えられるよう努力していきたいと思います。インバウンド部に所属している関係上、日本のお客様と直接やりとりする機会はございませんが、現地に関する質問等ございましたら、お気軽にご相談ください。



留学暦：

1998年9月 ロシア連邦国立サンクト・ペテルブルグ音楽院ピアノ科10ヶ月研修
1999年9月 ロシア連邦国立サンクト・ペテルブルグ文化芸術大学予備学部ロシア語学科10ヶ月研修
2000年9月 ロシア連邦国立サンクト・ペテルブルグ文化芸術大学文化学部理論・文化史学科入学
2002年12月 ロシア連邦国立サンクト・ペテルブルグ文化芸術大学文化学部理論・文化史学科退学
東京 浅野 真理奈（あさの まりーな）

“やっぱりロシアだな”

個人旅行の手配をさせていただいている柳沢と申します。昨年は残念ながらロシアに行く機会を逃しました。旅行に行かれたお客様からロシアの印象や感想をうかがわせていただく度に、今度こそは自分の番と想いを馳せています。私がロシア・ペテルブルグへ最後に行ったのは2000年夏です。その頃から比べるとペテルブルグは大きく様変わりしています。街の様子や新しい建物など、次に行くときはどんなペテルブルグが見られるのだろうと思うと、早くロシアに行かなければと焦ってしまいます。最近は日本でも映画、テレビ番組やCMなどでロシアが使われることが多くなり、日本に居ながらにしてロシアをのぞくことができます。ロシアもそれだけ一般化してきたということなのかもしれません、それでも実際に行くと、やっぱりロシアだな、と思わされることがあることがあります。でも私はその‘やっぱりロシアだな’というところが大好きです。外国を旅行すると、言葉の問題や不慣れな地だからこそ実感する不自由さがあります。ロシアは特にその不自由を感じることがほかの国よりも多いかもしれません、ロシアでしか体験できないことがロシアにはたくさんあります。今年こそはロシアへ行き、みなさんにもっとロシアを紹介できるように努めてまいります。

東京 柳沢 昭子（やなぎさわ あきこ）写真右



ロシアといえば、やはりペテルブルクです！

あけましておめでとうございます、東京事務所で皆様の旅行・留学の計画において極めて微々たるお手伝いをさせて頂いている中澤と申します。私も幾つかの国で語学研修に参加した経験がありますが、やはり最も魅せられたのはお仏蘭…、いえ、ロシアです。ロシアといえば、やはりペテルブルクです！ペテルブルク派です！モスクワは残念ながら合いませんでした。というのも、

私もロシア語を学び始めてから早幾年、昨年の JIC の 9 月の短期語学研修ではなんと添乗員として学生さん達と一緒にロシアに行くという体験をすることと相成り、その際に 4 日間のモスクワ旅行に皆さんと出かけたのですが、モスクワ人とはなぜか喧嘩になってしまふのです…。ただ一人、モスクワにおける私の理解者、それはガイドのオリガさんのみ！オリガさん、スマシーゴースパジ！さて、私と一緒にロシアに行った皆さんですが、皆さんもおそらく、ペテルブルクを気に入つて下さったことでしょう（『JIC インフォメーション』前号に詳しい）、ガイドのカーチャにも有難う、雨ニモ負ケていませんか。これ読んでたら連絡ください。

サンクトペテルブルクは、私にとっては「生まれて初めて一人暮らしをした町」です。留学を決めたそもそものきっかけは、奥田民生の『股旅』というアルバムに収録されている「さすらい」という歌でした。私はふと、目の前にあるものを疑つてみたくなつたのです。自分が目にし耳にしていることを真に受けではないだらうか。というわけで、そのための手っ取り早い方法として選んだのは「場所を変える」というものでした。留学は決して楽なことばかりではありません。しかし一度、離れた場所から自分の育つた環境や言語・言葉、信念や思考を眺めてみると決して無益なことではないと私は思っています。最小限の荷物を鞄に詰めて、思い切つてぜひどこか遠くへ出かけてみませんか。

東京 中澤 朋子（なかざわ ともこ） 前頁写真左

潮風がとても気持ちいいウラジオストク

新年あけましておめでとうございます。昨年はいろいろとお世話になりました。

一年がとても早かったです。昨年はいろんな意味で充実した一年間でした。なんといっても去年話題になったウラジオストクへ 9 月に行けたことですかね。久しぶりのロシア旅行はとても楽しかったです。といつても研修だったのですが。街は、とても華やかでヨーロッパなのかアジアなのか…独特の雰囲気でした。海から吹く潮風がとても気持ちいいです。もう少し前だったら泳げたのにと…。船に乗つてのクルーズはしてきました。これはほんとに気持ちいいです。冬は凍りますよ。実は、ウラジオストクは初めてだったのですがとても気に入りました。日本から気軽な日程でいけますし、是非おすすめです。

しかし、去年はウラジオストクだけでなく、いろんな意味で「ロシア」が話題にあがつた 1 年ではなかつたで



しょうか。どんなことであれ話題になることは、嬉しいことです。ただ、悲しいこと、不安定なことがまだまだ旧ソ連各国にはたくさんあると思うと、喜んでばかりはいられないですね。旅行をあつかつている者としては不安でいっぱいです。

しかし今年も、皆様の旅のお手伝いができればと思っております。ウラジオストクの次は…ハバロフスクのブームを起こしましょう！！

大阪 後藤 正明（ごとう まさあき）

Life Is A Journey. Not A Destination.



分厚いマグカップに、淹れたてのコーヒーが湯気を立てている。すでに読み終わった『宇宙船とカヌー』の頁を意味もなく繰る。東京タワーは鉛色の雨雲に隠れてしまった。ウォークマンで『インディゴ地平線』を聴きながら…昼休みによく立ち寄る神谷町のコーヒーショップ。店内の壁の落書きをじっと見つめる。Life Is A Journey. Not A Destination. 「旅行業に携わりながら、自分はここ最近旅をしていなかったなあ」などと考えていたら、どこでもいいから突然旅に出たくなつた。去年は飼っていた犬が病気になつてしまい、予定していたインド・ネパール旅行を断念してしまつた。今年は、久しぶりにバックパックを背負つて旅に出るのも悪くないかもしれない。うわさによると、満月の夜、サハラ砂漠にひとりでたたずむと、夜空の強烈な輝きによって過去の記憶が消されてしまうらしいのです。そんな不思議な体験を『孤独の洗礼』と呼ぶらしいのですが、好奇心がくすぐられると思いませんか。今年こそは旅しよう!! 皆様もよい旅を!!

東京 渡辺 哲（わたなべ てつ）

バナナで釘打ち体験

2005 年の幕開けはダイヤモンドダストの輝くシベリア。もみの木に囲まれた雪深いロシアの森でトロイカ遊びやそり遊びを楽しむ予定です（書いている時点では未完成）。ノボシビルスクから数百キロ離れた郊外のロッジで過ごします。市内でさえ 1 月の平均気温は -20℃、寒いと -45℃ ほどにもなるらしいです。-40℃ 以下ならば初体験になるので嬉しいような、でもちょっと怖いような…。バナナで釘が打てるという世界なのかも。

たんすの奥から引っ張り出してきた白狐の毛皮の帽子と、フィンランド製のモコモコのダウンのコートで何とかしのぐつもりですが、もしどうしても寒けりや現地調達で。以前にロシアで毛皮のコートを買っては日本に

持ち帰っていた時期がありましたが、夏になると獣の匂いが漂ってきて、家族から大クレーム。結局全部ロシアに持って行って売る羽目に。安物の毛皮は買っても日本じゃ着れない、毛皮の帽子も暑くて無理。大阪のいちばん寒い日でも汗だらだらですよ~。

ロシア料理は最高においしい！最近はいいレストランも増えてきたので、ロシアに行ったことのある方はそのおいしさに触れられたと思いますが、家庭の味はまた格別（もちろん料理の腕前によります）。トマト、きゅうり、きのこのピクルスなんて思い出すだけでもまだだが…。チーズの種類は豊富、自家製の作り立てカッテジチーズ、ニシンの油漬けとホクホクの茹でたてジャガイモに香草のウクロップ（ウイキョウ）を散らしたもの…。手作りのヴァレーニエ（ジャム）とプリンチキ（クレープ）。

せっかくのお休みは“南国のビーチで”と願いつつ（仕事柄どうしても南に憧れます）、夫に連れられ厳冬のシベリアへ行くことになったのですが、せっかくだから思い切り（ロシア式に！）楽しみます。ついでだからノボシビルスクの留学生を受け入れている大学も見学してきます。現地の条件がよければ、JIC 留学新コースを発表できるかも。

大阪 三宅 まゆみ（みやけ まゆみ）写真左



ジャン（ユダヤ自治州）を巡る青年交流の旅でした。またそれは、大学に入ったばかりの私にとって、初めての海外旅行でもありました。

ソ連と呼ばれていた時代、また特にウラジオストクは閉鎖都市（国防上の理由で外国人の立ち入りが原則できない）で、文化の違いはもちろんのこと、社会体制のギャップに圧倒されていたことが思い出されます。ゴルバチョフ改革、エリツィンの台頭、8月クーデターと、激動するソ連・ロシア情勢に好奇心をふくらませ、ついには 1992 年 4 月、大学 4 年生を休学してモスクワに留学しました。このときも、JIC からの派遣でした。前年 12 月末をもってソ連は崩壊。ロシア連邦として出発した最初の年、体制が移行する過程での激しい混乱の中、1 年間の思い出深き留学生活を送りました。時間をみつけては、ロシア・旧ソ連地域をくまなく旅して歩いた経験が、現在のロシア旅行手配に生かせておりますが、当時は、自分が後に JIC のスタッフになることなど、全く予想もしていませんでした。1993 年、帰国してほどなく声をかけられ、学生生活を続けながら、JIC でアルバイトを始めました。短期語学研修の比率、グループの添乗などを数回経験した後、1999 年より正スタッフとなりました。それから 6 年。JIC にも若いスタッフがどんどん加わり、気がつけばベテランと呼ばれるようになっていました。15 年間の様々な経験は、かつて抱いたみずみずしい好奇心や、志を曇らせてしまってもいますが、16 年目の節目に、もう一度原点に立ち返って参りたいと思います。そして、今年は、更に新しい何かに挑戦していこうと決意しています。

東京 神保 泰興（じんぼ やすおき）

気がつけばベテラン

新年あけましておめでとうございます。私がはじめてロシアに渡ってから、早くも 15 年もの年月が経ってしまいました。そして、私の「JIC 暈」も、これで 15 年を越したことになります。私の「初ロシア」は 1989 年 8 月、18 歳の夏に、JIC が企画した、極東のナホトカ・ウラジオストク・ハバロフスク・ビロビ



JIC がやってきたこと



- 1980 年 モスクワオリンピック観戦団派遣
- 1981 年 第1回ナホトカ青年の船（以後 10 回）
- 1982 年 12 月 国際親善交流センター設立
- 1983 年 第1回ピオニールキャンプ（少年交流）
- 1985 年 日本モンゴル円卓会議開催（東京）
「未来への構想」（「パ・ル」論文演説集）出版
- 1986 年 ペレストロイカ・セミナー（学術交流）
ジェーアイシー旅行センター設立
- 1987 年 スポーツニク・クルーズ受入
- 1989 年 ペレストロイカ・シンポジウム（東京）
ロシア語留学生派遣開始

- 1990 年 ソ連で初のホームステイ開始
- 1993 年 自治労・カジ・オトウセミナーに協力
- 1992 年 JIC インフォメーション定期発行開始
- 1995 年 モンゴル語留学開始、中国から経済視察団受入れ
- 1996 年 第1回ロシアン・フェスタ（東京）
- 1997 年 ロシアへの日本語教師派遣事業開始
- 1999 年 日本モンゴル友好訪問団（旭鶯山）
- 2001 年 中国から留学生受入れ開始
- 2002 年 FIFA ワールドカップ大会 観戦団受入
- 2003 年 留学セミナー（東京・大阪）
- 2004 年 ロシア・ペテルブルグ市代表団受入

モスクワ留学通信 Vol.4



さむ~い冬とこわ~い試験

小西 章子

皆さま、いかがお過ごしでしょうか？日本の冬はいかがですか？今年の4月（この記事が皆さまのお手元に届くころには‘去年’となっているかもしれませんね）よりモスクワ国立大学に留学中の小西章子です。もうこちらでの生活も残すところ一ヶ月あまりとなってしまいました。ほんと時間がたつのははやいものです。でもこれからの一ヶ月クリスマス、新年、ロシアのクリスマス・・・といろいろな行事があるのでまだ最後まで楽しみますよ。

今回は2つのテーマを設定してみました。1つは‘ロシアの冬’です。皆さまも、モスクワは寒いところだということは容易に考えられると思いますが、私自身、以前に思い込んでいた寒さと、実際に体験してみたモスクワの寒さはちょっと違うと思ったので、皆さんに紹介してみたいと思います。そして‘試験’！！これはロシアの冬同様、私が大いに恐れていたものの1つです。その詳細について報告します。ロシア語学習者は要チェック！（笑）ですよ。

皆さまのロシアのイメージとして挙げられるのは‘ロシアは寒い！！’でしょう。これは定説だと思います。私も否定しません。では実際のところはどうなのか・・・当初、今年の冬は寒くなるといわれていました。でも実際には今のところ暖冬だと思います。気温が低い日でもマイナス12度前後でしょうか。暖かい日だと0度前後になります。ただ、一番寒いといわれているのは2月なので、まだまだ油断はできません。前号でも少し触れましたが、初雪は10月11日でした。でもその後長く雪



のまったく降らない暖かい天気が続き、本格的に雪がどっさり降ったのは11月の後半でした。その後も時々0度くらいまで気温が上がり、雨が降って雪が解けて最悪の道路コンディションになって・・・という具合です。ロシア人の友達などに、「道が滑りやすいから注意して」などとよく言われますが、私の意見では、滑ることよりもぐちゅぐちゅの道の方が厄介です。自分がそろりそろりと気をつけて歩いていても、近くを自動車がビューンとかっ飛ばすと一気に落ち込みます（涙）。汚れた服の洗濯がほんとに大変（笑）。

私は極度の冷え性なので、ドゥブリヨンカ（=中が毛で外が革の暖かいコート）を買いましたが、なくても十分すごせるようです。私の周りの友達もダウンコートでモスクワの寒さをのりきっています。ただ、帽子は必要です。ちょっと油断して帽子をかぶらないと、頭ががんがんに痛くなってしまいます。頭が痛くなって、その後、目が痛くなってコンタクトがつけられなくなってしまって、勉強する気もなくなって、ただひたすら寝るっていう所までいっちゃいます。私は3度くらいこれを経験しました。今はちゃんと毎日帽子をかぶっています。

ロシアのさむ~い冬でも楽しいことはたくさんあります。雪がたくさん積もった次の日はみんなで雪合戦！そして雪だるま！まるで子供みたいですが、モスクワっ子たちも恥ずかしげもなく遊んでいます。最近は、もう飽きてしまったのか、雪合戦人口減少中ですが・・・。

冬といえばスケートも楽しい季節です。郊外にある大きなショッピングモールの中には夏でも楽しめる小さなスケートリンクがありますが、やっぱりスケートのシーズンは冬！冬の間、寮から遠くないところにあるゴーリキー公園（遊園地）では屋外でスケートが楽しめます。今モスクワではローラースケートがはやっているということもあり、氷の上のスケートも大変人気があります。みんななぜか本当に上手に滑っています。

私は残念なことにスケートはあまり得意ではないの





ですが（幼いころにスケート教室に通い、挫折した経験あり）、スケートを見るのは大好きなので、11月の終わりにフィギュアスケートの国際試合を観戦しにスタジアムに行ってきました。残念ながら日本ではあまり大きく取り上げられないスポーツかもしれませんが、ロシアでは大変人気があります。チケット料金も日本と比べると‘月とすっぽん（笑）’です。日本からも何人かの選手が参加していましたし、世界的に有名な選手たちも参加していました。モスクワっ子たちは選手たちを応援しにスタジアムへ足を運び、子供たちは選手からサインをもらおうと走り回っていました。結果的に、ロシア選手が活躍したというのもあり、大変盛り上がった試合となりました。日本ではなかなか触ることのできない文化をこうやって手軽に体験することができるのも留学のよいところだと思います。

たったいま、「留学」という言葉を書いて思い出しました。そうだ、私はモスクワに留学しに来てるんだった（笑）！！情けないですね・・・（涙）。私はロシア語を身につけるためにロシアに来ているんだった・・・。

モスクワでの語学留学が始まったばかりのとき、私は自分で自分に課題を出しました。でないと、だらだらと時間を過ごしてしまうから。私は学生でもないし、会社から派遣されて来たわけでもないから、自分の好きなように留学生活を過ごせるのだけれど、自分がここに来て勉強した証を手に入れて帰りたいということは始めの段階から感じていました。だから、最後にロシア語の検定試験を受けて帰るということを自分の課題として設定しました。そして実際に私がこの試験を受けたのは12月9日と10日です。

ロシア語検定試験はレベル別に6つに分かれています（入門級、初級、1級～4級）。1級を持っているとロシアの大学に入学し、ロシア人と一緒に授業を受けることができます。といっても、それほど難しい試験ではありません。私はこの1級に合格して帰ろうと決めました。試験はどの級も5つの部分からなっています。文法と語彙、読解、リスニング、作文、会話の5つです。その5つの部分すべてにおいて75%以上できていなければ合格となります。1つの部分だけでも75%を満たさ



ないと不合格となります。私たちの先生たちは「日本人学生はたいてい、文法や読解は問題なくできるのだけれど、リスニングと会話があやしいよね」とよく言います。実際に今までにこの試験を受けた人の話でも、会話とリスニングの点数が低めだったということはよく聞かれます。事前にこの試験のための模擬試験のようなものを授業のときにやりましたが、それよりも実際の試験のほうがはるかに難しく感じられました。

読解や会話の試験にでてくる文章は、ロシアの有名人（作家や歌手、作曲家、詩人、画家、俳優、スポーツ選手など）についてのもの、有名なもの（劇場、博物館、美術館、像など）が多いです。わたしのときはチエーホフやロシア美術館についての文章がとりあげされました。授業で読む文章もそのようなものが多いです。これはただ単にロシア語を理解するのではなく、ロシアについて深く理解することを目的としているためです。日本の有名な画家や作家について考えたとき、名前は知っているけれど、どんな人生を送ったかとか、そういうことまでは知らないことに気づいて、とても恥ずかしくなりました。日本人なのに日本についてよく知らないことを最近よく感じます。そしてさらに悪いことに、最近日本語が・・・出てこない（涙）。というかロシア語で理解できても日本語に訳せないんです。困ったことです。

そして（？）、無事に合格証明書を先週受け取ることができました。みなさん拍手～（笑）！！記念写真もばっちりとて、満足です。私もご多分に漏れず、リスニングが一番悪い成績でした（苦笑）。これで心置きなく新年が迎えられるってものです。



さて、みなさん新年はどのように過ごされましたか？まだ予定ですが、ロシアの新年とクリスマスについて次号で皆さんに紹介したいと思います。今年のお正月はお餅がないのが残念！モスクワでの留学生活も残りわずかとなってしまいました。自分自身めいっぱい楽しんで、皆さんにロシアのよさを少しでも多く知っていただきたく思っています。

では次の号でお会いしましょう。シスリーヴア！！

【続】

写真展「チョーチャ! チョーチャ! ～ロシアの顔～」

「チョーチャ」とはロシア語で「おばさん」という意味。モスクワの街で出会ったチョーチャを中心にロシアで出会ったおばさんの写真40点を展示。1993年から現在までロシアの写真を撮り続ける広瀬明代さんが写真展を開きます。

[開催によせて]

ロシアのチョーチャが好きです。彼女たちは優しく、プライド高く、たくましいから。ある年金生活のチョーチャの家を訪ねると、鶏肉でとった澄んだスープとパンをふるまってくれました。「さあ、あんたは若いんだから、たくさん食べなさい。」たまたま目にした冷蔵庫の中には容器に入った水しかないのに、「これを食べていのだろうか」と、とても心配になりました。また、街で会ったあるチョーチャに「写真を撮らせて」と頼むと、「いいよ。けれど、歯の治療をしたいからお金をちょうどい」と。パンを買うお金、とは決して言いませんでした。孫と動物園に来ていた毛皮帽をかぶったチョーチャは日本から来た「チョーチャ」のカメラの前で、かなり素敵なお姿を決めてくれました。

そんな彼女たちの顔のしわ、着ているもの、持っているもの、しぐさ、話し方…。私にとってすべてが興味深いものでした。私が同性だからでしょうか。それらのディテールはソ連崩壊前後の激動の中を生きてきた彼女たちの歴史や今の生活状況などを強く私に訴えかけてくるのでした。まるでロシアという社会を物語るかのように…。彼女たちを撮っていて、そもそも人間とはとても強いものなのだ、ということを考えました。そして人の喜びって、自分の中の一瞬一瞬に宿るとしてもシンプルなものだ、とも思いました。

およそ40人のチョーチャたちに会いにきてください。

作者紹介：広瀬明代

1964年東京生まれ。カメラマンとして15年間の新聞社勤務を経て2004年よりフリーランスに。ドキュメンタリーを中心に風俗、ポートレイトなど幅広く撮影。コラムの執筆なども。通信社勤務の夫のモスクワ転勤に伴い、1999年から2002年まで在籍していた新聞社を留学などを理由に休職。2001年には同じテーマを扱った個展「Face of Russia」をモスクワで開催。インターネット通信、モスクワニュース紙などで紹介される。ロシアで著名な気鋭のアートディレクター、エリザベータ・プラビーンスカヤは作者の視点を「ドストエフスキーやトルストイも持ち得なかつた新鮮なロシア人女性のとらえかた」と評する。が、一方で、ソ連時代を懐かしむ年配女性などから「見たたくない写真」「めしがまずくなる写真」などの批判も受けた。

2月7日～12日 10:00～18:00
銀座キヤノンサロン 03-3573-7822
東京都中央区銀座5-9-9

2月21日～3月4日 9:00～17:30
福岡キヤノンサロン 092-411-4173
福岡市博多区美野島1-2-1

3月22日～4月1日 9:00～17:30
札幌キヤノンサロン 011-728-0665
札幌市北区北7条西1-1-2 SE山京ビル1F

4月11日～22日 9:00～17:30
仙台キヤノンサロン 022-217-3210
仙台市青葉区国分町3-6-1 仙台パークビル

各会場ともに最終日は16時まで。入場無料。休館日：銀座は日曜、祭日。その他の会場は土曜、日曜、祭日。

写真展に関する問い合わせ：
広瀬明代 090-7411-1987
akiyohi@yahoo.co.jp
キヤノンサロン銀座 03-3573-7822



飛んでけ！車いす

「飛んでけ！車いす」の会という、ちょっと変わった名前のとおり、私たちの活動はいくつかのユニークなポイントがあります。やっていることは、国内に眠っている中古の車いすを修繕して発展途上国が必要な方々に送るという単純な活動なのですが、旅行者が手荷物として運ぶというところが「面白い」と言われる理由です。この方法で送り届けた車いすは過去約7年間で実に900台を超え、その国々は世界46カ国まで広がりました。

それもこれも、車いすを運んでくださる旅行者のみなさんの協力があればこそ。開設当初は「車いすを持っていくなんて大変なことをボランティアでやってくれる旅行者がいるだろうか。」と心配されたけれど、一度運んでくださった方の中には「先方にとても感謝されてこっちも感激した。また持って行きたい。」と言ってリピーターになる人も少なくありません。旅行者の手荷物という発想は、単に送料や税金を軽減するというだけでなく、「人と人をつなぎ」「顔の見える援助」を小さいながら実現することになったのです。

この活動、以前は旅行者の行くところで利用者を探すというパターンが基本でしたが、最近では、現地から先にリクエストをもらうことも増えました。ウズベキスタンはその一つ。一般旅行者には馴染みのない国なので、これまでなかなか届けるチャンスはありませんでした。独立



後国の財政難が理由で、多くの障がい者が車いすがなくて困っているという知らせをいただいたのがきっかけで、この春と秋に2回、当地を訪ね、障がい者の支援団体(NGO)に聞き取りをしたり、車いすの利用状況を調べました。首都タシケント(日本から直行便で約8時間)は、230万の人口を抱えた大都市。女性たちの装いが実際にファッショナブルで、日本の高校生も顔負けのミニスカートと緑豊かな街並みに、イスラムの国、砂漠の国のイメージを一新させられました。実際、ソ連時代はもちろん、現在でも女性のスカーフや男性の髭などは法律で禁じられており、とりわけタシケントは60年代の大震災で建築物がすっかり新しくなったため、イスラム教国の色彩はあまり感じられません。しかしながら、地方へ行けば、たちまちシルクロード時代を思わせる風景へと変わり、住民の生活スタイルやバザールの様子には、イスラム文化や昔ながらの地域コミュニティがしっかりと息づいていることに気付きます。

今回の調査旅行がきっかけで、すっかり中央アジアのファンになってしまい、来年は現地NGOと協同して交流会なども企画しています。中央アジア方面へご旅行を考えているみなさん、車いすを運んでみたいなという方がいらっしゃれば、是非当会までご一報下さい。

060-0005 札幌市中央区北5条西6丁目 札通ビル2F
NPO法人「飛んでけ！車いす」の会
Tel/fax 011-242-8171 tondeke@anet.ne.jp
<http://www6.plala.or.jp/tondeke>



頑張りました！語劇祭(11月27日) 神戸市外国語大学

去る11月27日、神戸市外国語大学の恒例の語劇祭が行われました。学生たちがゴーゴリの「結婚」をロシア語で1時間半演じきました。見やすい字幕付でとてもわかりやすかったです。俳優陣のロシア語力と演技力にホント驚きました～。すばらしい。心から拍手をくります！来年も呼んでね。JIC大阪



グリゴリー・セドウフ 特別演奏会 2005年2月11日

通常のヴァイオリンより奏法の難しいピッコロ・ヴァイオリン奏者・世界の第一人者として評価されているセドウフ氏が演奏会を大阪で開きます。

会場：ロシア総領事館(大阪・豊中市)
時間：14:00 開演(13:20開場)
16:00 親睦会
会費：演奏会 3,500円 親睦会 3,000円

お申込み・お問合せ：
M.M.モーツアルト TEL:0721-24-7905
E-MAIL: mozart@poppy.ocn.ne.jp



JICスタッフレポート

変わりゆく・変わらざるロシア・ウクライナ

今回は第2回、モスクワ・ペテルブルク・キエフ訪問の雑感をレポートさせていただきます。

ペテルブルクは5年ぶりの訪問、あいにくの空模様でしたが、ツァールスコエ・セローの赤や黄に色づく木々は、そんな曇天の下でも、まばゆいばかりに鮮やかでした。まさしく「黄金の秋」です。落ち葉を踏みしめながらたどり着いたエカテリーナ宮殿では、昨年復元されたばかりの「琥珀の間」が太古からの光を放ちながら、我々を迎えてくれました。ただ、見学は写真撮影不可、また警備の関係か、大して混んでいる様子でもないのに、立ち止まって見ることも許されませんでした。

ホテルは、イサク聖堂の向かいの「アングレテーレ」。隣に建つ、伝統ある「アストリア」ホテルの別館の位置付けもあり（経営は同一）、フロントの対応も、客室サービスも一流を感じさせます。日本人客は我々だけの様子なのに、朝食バイキングには味噌汁、白飯、焼鮭、巻き寿司まで並びました。最近の日本食ブームのおかげかも知れません。

エルミタージュ美術館では、お気に入りのレンブラントの諸作品に久々に再会しましたが、日本人好みの、充実した印象派の絵画コレクションの多くが、国外に貸し出し中のようでした。

近々立て替えされる予定の、マリインスキイ劇場でバレエ「くるみ割り人形」を鑑賞した後は、プーシキンも常連だったという、「文学喫茶」で、ピアノやバイオリンの生演奏を楽しみながら、伝統のロシア料理に舌鼓を打ちました。

ウクライナ・キエフは12年ぶりの訪問でした。大統領選にからんだ、大規模な市民集会が開かれている模様がテレビで連日流れている独立広場も、モスクワなどと同じく、地下には大ショッピングモールが設けられ、買い物をする市民でごった返していました。

宿は、キエフのメインストリート・フレシャーチク通りに面した「ドニエプロ」ホテルでした。どこに行くにも便利な立地でしたが、大通りに面しているため、夜通し車の騒音に悩まされました。だた、さすが欧洲有数の農業国・ウクライナらしく、バイキング形式の朝食は品数、味ともに2重丸でした。

ペチエールスカ大修道院はドニエプロ川沿いの緑につつまれた、東スラブでもっとも歴史の長い修道院です。最近再建され、その美しい姿を取り戻したばかりの、ウスペンスキイ大聖堂の威容に感心し、これまた復元され



たばかりでまだ未公開の内部のイコン（写真左）を、門のおじさんに少しばかり渡して、そっと見せてもらいました。ペチエールスカ大修道院見学のハイライト（？）は、やはり地下墓地。入り口でろうそくを1本買い、真っ暗な洞窟を順に進んでいくと、細い通路の脇の所々に安置された、聖衣につつまれたミイラがぼんやりと浮かび上がります。我々物見遊山の観光客は怖がっているだけですが、現地の、信徒とおぼしき人々は敬虔な表情で、ミイラに向かって時折十字を切ったり、ガラス張りの聖像画に接吻をしたりしています。

夜は、ガイドさんおすすめの「ペルヴアック」レストランへ。19世紀、革命前帝政ロシア統治下の雰囲気をモチーフにした店内で雰囲気は満点。英語併記のメニューも品数豊富でした。ペリメニだけでも数種類あり、それぞれ一皿ずつ頼んだら大変な量になってしまいました。12年前、キエフ風カツレツを求めて夜の街をさまよい、ようやくたどり着いたレストランでも、メインが3、4種類しかなかったころからすると、隔世の感があります。

モスクワは10月20日で、すでに小雪がちらついていました。宿を取ったのはまだオープンして間もない「チフリス」ホテル。地下鉄クロポトキンスカヤとパークリクリトールイの間に位置する、都心から近くしかも静かなよい立地です。シャワーオンリーですが、濃い暖色系で統一された室内は、北国モスクワではほっとさせられます。

遅い夕食は、ホテル向かいの「アジアンカフェ」で巻き寿司のパックを買って済ませました。このお店、ここ数年来の日本食ブームに乗って、モスクワ市内で急速に店舗を増やしています。あまり期待しませんでしたが、物価の高いモスクワでは比較的リーズナブルで、しかもお味は合格。この日本食ブームも、すっかり市民権を得ているようです。

旅の締めくくりのお土産漁りはやはり定番のイズマイロフ公園・ベルニサッジへ。値段交渉は、数年間のさびが付いた、私のロシア語力でも楽しいものです。結局、大体値札の20~30%引きで、両手一杯のお土産をせしめ、意気揚揚とシェレメチエヴォ第2空港へ向かいました。

変わり行く、また変わらざるロシア・ウクライナを楽しんだ今回の訪問でした。

JIC 東京 神保 泰興





ロシアや旧ソ連からペンパル募集です 大解!ロシア(旧ソ連)に友達を持とう!



① Name ② Sex ③ Born ④ Address ⑤ E-MAIL ⑥ Hobby ⑦ Languages

① KIEV Igor ② Male ③ 1983 ④ Republic of Kazakhstan, Pavlodar town ⑤ CNokia@rambler.ru ⑥ Computers and my job and study ⑦ Russian

① GUROV Vadim ② Male ③ 1990 ④ Russia, Ekaterinburg ⑤ sungee@r66.ru ⑥ Culture of Japan, History of Japan, computers ⑦ Russian, English

① SIDOROV Ilia ② Male ③ 26 years old ④ Japan, Shinjuku, Shinookubo ⑤ iliasidorov@hotmail.com ⑥ Profession: web-project manager in Russia, bartender and student of Japanese language in Tokyo Hobby: my hobby always become my job. How about language exchange in Shinjuku or Ikebukoro, Tokyo? I think just small cup of coffee can give us much more than just studing alone. I have time from 12-30 till 18.00 from Monday till Friday and also Sunday is my day-off. ⑦ Russian, English, Japanese



① SHUMSKAYA Elena ② Female ③ 1984 ④ Russia, Lipetsk town ⑤ LunaUran@mail.ru ⑥ I am a student of sociology, Lipetsk university. My hobby is cultural traditions, and, in particular, dances of different countries. I want to find a penpal in Japan! ⑦ Russian, English

① KUSHNIRUK Andrei ② Male ③ 1981 ④ Ukraine, Rovno town ⑤ fr1m@mail.ru ⑥ Anime, cinema, music, fantasy, cybersports ⑦ Russian, English

① TANAKA (Nickname) ② Male ③ 21 years old ④ Russia, Vorkuta town ⑤ teppodama@msn.com ⑥ Occupation: I study at university at faculty of foreign languages. Hobby: History of ancient Japan, anime, movies. ⑦ Russian, little English

① STALNOV Denis ② Male ④ Russia, Moscow ⑤ istoksat@freemail.ru ⑥ Japanese music, art, religions ⑦ Russian

① BAGYAN Karen ② Male ③ ? ④ Armenia, Yerevan city ⑤ karen@xar.am ⑥ Japanese language,



karate kyokushinkai, reading ⑦ Russian, English, little Japanese

① CHERKESOVA Tatyana ② Female ③ 1982 ④ Russia, Novosibirsk city ⑤ Londo@ngs.ru, Londo@list.ru ⑥ Desing, art, sports, chatting, knowledge, friends, Japanese culture, fashion ⑦ Russian, English, Latin

① PODSADNY Oleg ② Male ③ ? ④ Kiev, Ukraine ⑤ oleg@aftorio.kiev.ua ⑥ music, computers, art ⑦ English, Russian

① KRISHTOPIN Alexander ② Male ③ 40 y.o. ④ Russia, Novosibirsk ⑤ afi-kaidar@mail.ru ⑥ DOGS! Dog-breeding (Professional), especially Central Asia sheep dogs. I want to find a professional in this scope in Japan. ⑦ Russian, English

① SOZOHOVA Victoria ② Female ③ 1983 ④ Russia, Novosibirsk ⑤ vikuska@aport.ru ⑥ Japan, music, computers, books, magazines ⑦ Japanese, English



①

① LUSHENKOV Vitaly ② Male ③ 1984 ④ Russia, saint-Petersburg ⑤ v_i_t_a_l_i_k@mail.ru ⑥ sports (track and fields, tennis), Japanese language, history ⑦ Russian, English

① KOSENKO Igor ② Male ③ 1981 ④ Republic of Kazakhstan, Temirtau town ⑤ shizoxep@crazy.ru ⑥ Computers, digital video, anime, chatting. I have a dream to see Kyoto ⑦ English, Japanese



手紙は、特に日本語の記載がない場合には、ロシア語か英語で書きましょう。日本語の場合は、易しい言葉で書きましょう。メールの場合は、相手のパソコンでは日本語が文字化けして読めないこともあるので、最初のメールは英語で書くのが無難です。

宛先の住所は英語表記で届きます。
あなたの住所も英語で書いておきましょう。
それでは、すてきなお友達ができますように！

Good Luck! JJC

1月の予定



- 1月14日(金) 春のロシア語短期研修旅行申込締切
- 1月15日(土) JIC 東京・大阪留学相談会
- 1月29日(土) JIC 東京・大阪留学相談会
- 1月31日(月) 4月出発長期留学申込締切



締切せまる!

ロシア長期留学4月生・募集中

【期間】2005年4月より10ヶ月 【締切】2005年1月31日

モスクワ国立大学 \$4000(授業料10ヶ月)

サンクトペテルブルク国立大学 \$4000(授業料10ヶ月)

ウラジオストク極東大学 \$4000(授業料10ヶ月)

*上記の金額以外に別途、寮費、手配料、渡航費用、ビザ代金及び取得手数料などがかかります。

ロシア語個人研修(随時募集)

モスクワ・ダリパス社 (ホームステイ3食付) ¥194,000

モスクワ大学 (大学寮1人部屋) ¥172,000

ペテルブルグ・パートナー社 (ホームステイ2食付) ¥214,000

ペテルブルグ文化大学 (ホームステイ2食付) ¥284,000

上記料金は、4週間の研修・滞在費用、食費(ホームステイの方のみ、2食または3食)を含みます。渡航費用・査証代金等別途。

NEW! 週間からのプチ留学OK!

モスクワ・ペテルブルグ・ウラジオストクの各都市にて

ロシア語グループ&個人研修(随時募集)

リデン&デンツ スイスの会社出資のロシア語学校。

個人・グループレッスン。モスクワとペテルブルグがあり、初心者より上級者まで。2週間より可能。基本はホームステイ2食付。詳細はパンフレットをご覧下さい。



JICロシア語講座開講中

東京 1月 3学期開講
大阪 10月～後期開講中

途中参加OK!
ロシア語を始めよう!

留学・研修各種パンフレットはJICへご請求ください。留学・旅行相談お気軽に！

JIC東京クリスマス・ロシアンティイー



去る2004年12月18日(土)、17:30～六本木のロシア料理店「ロスカヤ・トロイカ」にて、クリスマスパーティを開催しました。総勢約40名、ロシアビール「バルチカ」、グルジアワイン、ウォッカなどのお酒と、サラダ、ピロシキ、ボルシチ、ペリメニなど、ロシア人シェフによる本場の料理に舌鼓を打ちながら楽しい時間をすごしました。お一人、お二人で参加された方が多かったのですが、ロシアの話、旅行の話など、すぐに弾む会話の輪があちこちにでき、大いに盛り上がりました。

料理が一段落したところで、ロシアに関するYES・NOクイズ大会を始めました。なかなか難しかったようで、はじめの5問ほどで勝者5人が決まってしまったのは予想外でした。スタッフは、問題を30問ほど用意していたのですが、「ロシア通」やロシア人の方が意外にご存知ない事もあって面白いなと思いました。

東京のクリスマス会をどのようなイベントにするのか、ジェーアイシーではここ数年の検討課題でしたが、今回皆様に楽しんでいただけたことを大切に考え、今後の企画を作っていくたいと思います。ご参加くださった皆様、どうもありがとうございました。

(東京スタッフ 杉山)

JICフェア(大阪)



恒例の大坂JICフェアが12月11日に行われました。約100名の参加者に恵まれ、楽しいひと時を過ごすことができました。次回は5月か6月です。JICホームページや本誌で日時を発表しますので、どうぞご参加下さい！

JICのホームページを
チェックしよう！

<http://www.jic-web.co.jp>



JIC留学相談会

1月15日(土) 留学相談会(東京・大阪各事務所)

1月29日(土) 留学相談会(東京・大阪各事務所)

JIC各事務所、13:30～16:00

留学担当者がロシア留学のお問合せ・ご相談に応じます。お気軽にお越しください。

上記日程以外でも、各事務所で常時JIC留学カウンセラーがご相談を受け付けております。お気軽にどうぞ！

東京事務所 平日 10-19時 土曜 10-16時

大阪事務所 平日 10-19時 土曜(6-9月のみ) 10-16時

Jクラブ(JIC友の会)のご案内

JICインフォメーションを年6回、またJICのイベント案内をもれなくお届けします。
年会費3,000円を下記口座にお振込みください。
郵便口座: 00120-5-367767 国際親善交流センター